

久留女木の棚田 住民意識調査

文化芸大ゼミ生ら 観光振興活用へ



住民に調査への協力を呼びかける船戸修一教授＝
浜松市北区引佐町で

静岡文化芸術大（浜松市中区）の船戸修一教授とゼミ生たちが、浜松市北区引佐町の久留女木地区の全世帯を対象に、観光名所の「久留女木の棚田」に関する意識調査を始めた。地域を巻き込んだ具体的な振興策に役立てたい考えだ。

船戸教授によると、久留女木地区で棚田を耕作しているのは6世帯。残り52世帯は耕作に関わっておらず、全住民の棚田への思いを明らかにしようとアンケートを実施することにした。調査票では、棚田に行く頻度や目的、農作業経験

27日夜に船戸教授とゼミ生3人が手分けして地区内の川西、本村、中代、東の4集落の常会を訪れ、住民に協力を呼びかけた。10月中に回収し、年度内に集計結果を地元で報告する。

船戸教授は2016年からゼミ生らと久留女木の棚田の耕作を続けている。「耕作に加え、来年度以降の新たな取り組みを考える材料にしたい」と話していた。

（小佐野慧太）